



# 3Fからはじまる3R

～古着のリサイクル～

---

小穴、高丸、中澤、二ノ宮、光



## 記事の要約

---

- 流行とともに消費されていく衣類は、着なくなれば捨てられる、というのが今までの概念であった。
- しかし昨今では、着た後どうするか？というところまで意識が届き始めているようだ。
- 記事では、繊維として再生させる取り組みを紹介している。

## 現状①(1999年度)

- 国内繊維廃棄量:207.6万トン
- 再利用量(リユース):16.8万トン
- 回収量:25.9万トン(うち再商品化量:16.7万トン)

⇒ 回収率 約12%(回収量/廃棄量)

⇒ 衣類のリサイクルは固有の法律もなく、進んでいない。



## 現状②～現存リサイクル方法の内訳

古着として輸出 7.2万トン

1万円／100kgで採算とれるが、現状は5000円

繊維原料への再生 4万トン

技術はあるが、顕在化が進まない

ウエス(工場用の雑巾)にする 5.5万トン

工場の海外移転などにより、需要が激減

廃棄物として処理 9.2万トン(36%)

不要となった衣類が循環していない



# 問題点と原因

---

## <問題点>

- 9割の衣料が可燃ごみとして扱われている  
⇒回収率が低い

## <原因>

- 回収・分別機能が万全でない
- リサイクル後の供給先がない

# 経済産業省の取り組み

- 繊維製品リサイクル懇談会報告書p.6-
- リデュース  
生産：減量の目標値の設定を検討  
流通：フローの把握  
消費：環境教育・PRの推進
- リユース(中古衣料品市場)  
国内：アクセス、事業者間の連携強化  
海外：マーケティング力強化
- リサイクル  
再生用途拡大：「マーク」の推進  
環境配慮設計の推進
- 適正な処理の推進



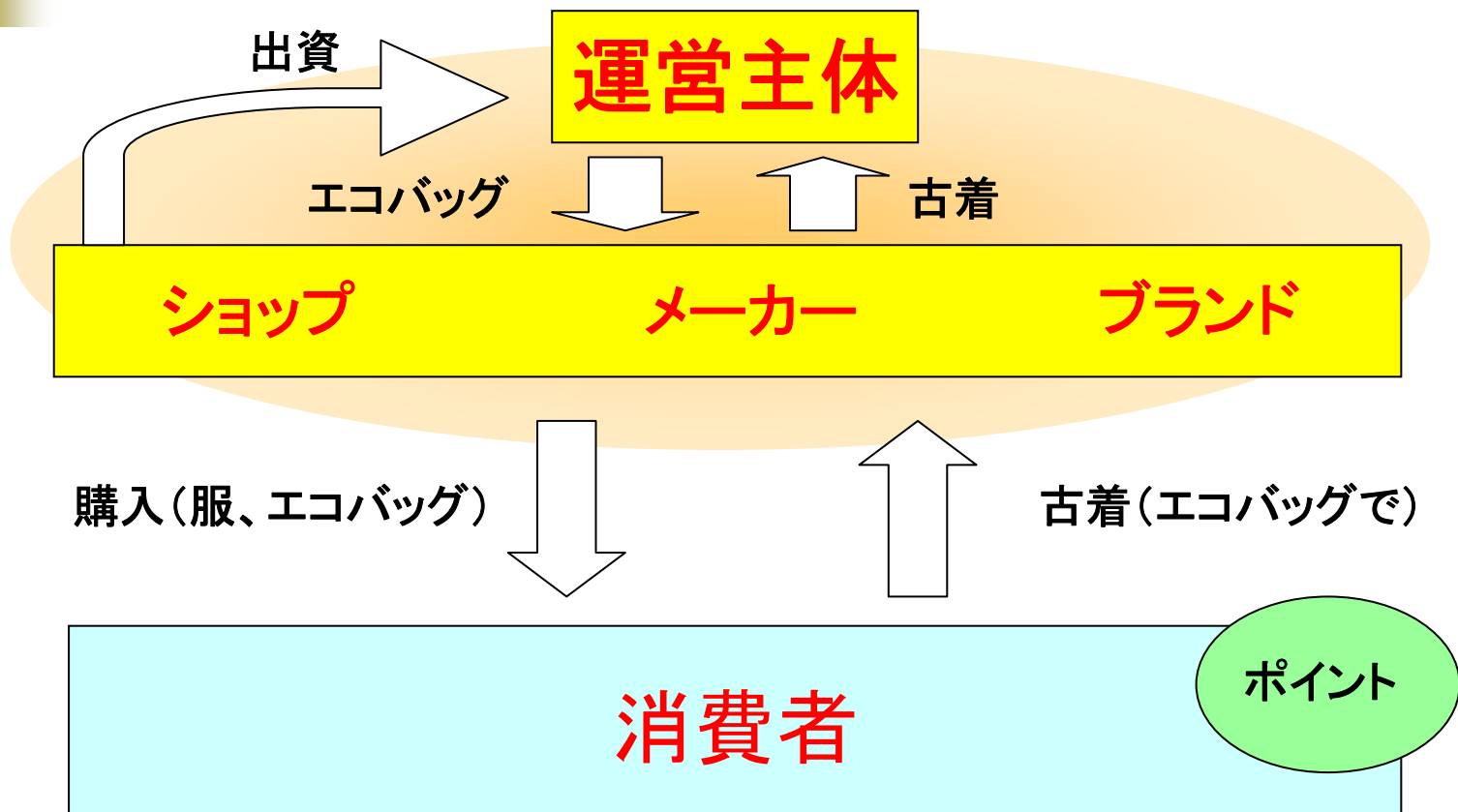
他に何か出来ないか??

# 解決策の提案

～回収ルート、リサイクル製品需要の拡大

- コンセプト  
エコバッグの導入により、  
アパレルメーカーや、ブランドと、消費者の間  
での衣類の循環を目指す
- 運営主体を設立
  - ・アパレルメーカー、ブランドが出資
  - ・回収された衣類が原料のエコバッグを製造

# 提案の概観







# 提案の具体的内容

---

- エコバッグ
  - ・回収した衣類から繊維を再生⇒製造
  - ・出資したメーカーや、ブランドのロゴをプリント（出資の割合により、ロゴの大きさを決める）
  - ・小売店で消費者に販売
- 消費者
  - ・エコバッグを使い、不要な衣類（加盟ブランドに限る）を小売店へ持ち込む⇒ポイントが付く

# エコバッグの製造

- 回収された衣類をもとに、繊維を作る。
- その繊維でエコバッグを作る。
- 天然繊維・ポリエステル80%以上の衣類を使用





# 提案による効果

---

- 企業のメリット
  - ・ 宣伝効果（エコバッグのロゴにより）
  - ・ 企業のイメージアップ  
（“エコ”な会社としての付加価値 ex. CSR）
  - ・ リピーター（回収時に来店）
- 消費者のメリット
  - ・ 回収ポイントをためる⇒お買い物券



## 提案による効果②

---

- 社会におけるメリット  
衣類の循環が起きる

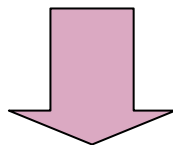
回収ルート／リサイクル製品の需要拡大  
改正容り法\*の浸透に寄与

\* 改正容り法(H.19、4/1施行)

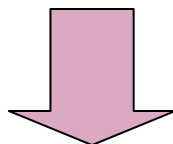
小売業に包装材やポリ容器などの削減を義務付ける法律。

# まとめ

エコバッグの導入



回収ルート確保／リサイクル製品の需要拡大



衣類の循環・リサイクルが可能に



# 参考文献

---

- 循環型社会白書平成16年度／環境省
- ごみ・リサイクル統計データ集2005／生活情報センター
- 中央環境審議会 循環型社会計画部会 地方ヒアリング(福島会場)議事録
  
- EICネット<http://www.eic.or.jp/library/pickup/pu011220.html>
- 経済産業省  
<http://www.meti.go.jp/>
- 財団法人日本セーリング連盟 平成19年度事業計画  
<http://www.jsaf.or.jp/koukai/2007/project-plan.pdf>